

## 第1回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2012年5月24日（木）午後1時30分～午後2時45分

場 所：川崎市役所第四庁舎第5会議室

出席者：〔委員〕岩森、庄司、末吉、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室

〔事務局〕一般社団法人CAT

### 1. 開会

川崎市地球環境推進室長から挨拶があった。

### 2. 配布資料の確認

事務局から配布資料を確認があった。

### 3. 委員会設置要項について

事務局から委員会設置要項を説明し、委員に確認された。

### 4. 委員長及び副委員長の選出について

委員長に庄司委員、副委員長に瀧田委員が就任した。

庄司委員長からは6年目を迎え多くの人を巻き込む動きを作りたい、瀧田副委員長からは是非盛り上げていきたいとの挨拶があった。

### 5. 今年度の事業計画について

事務局から、今年度は概ね今までと同様の活動を行うが、特に川崎市地球温暖化防止活動推進センター、かわさき市民活動センター、特定非営利活動法人 産業・環境創造リエゾンセンターと連携しながら進めていきたいという提案説明があり了承された。今年度の事業計画に対し意見交換を行った。

- 今年はRio+20が開催され、メディアから取り上げられることが予想される。交流会やセミナーを開催するときに反映できるような内容があってよい。川崎市では市民も企業もグローバルなセンスを磨いてほしい、市民と企業の交流の場に小学校高学年や中学生などの子どもたちとの接点をつくりたい。Rio+20の情報をもっと市民に発信したい。市民と企業に、ビジネスにおける大事な視点などの情報を、わかりやすく配信できないか。
- （事務局）ウェブやメーリングリストで発信することはできるが、発信する内容の情報提供元をどこにするかを検討することが必要である。まずはグローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークとの連携が考えられる。

- 子どもたちとの接点作りということであれば、事務局が企画するバスツアーや見学会など考えられるが、一方、市民団体では出前講座など多彩な取り組みをしている。
- イベント出展は企業の祭りでPRするのはどうか。かわさきコンパクト大使などの取り組みがあるとインパクトがある。
- 臨海部企業と子どもとの接点は既にバスツアーなどの取り組みがある。他にも国際交流や多文化共生などの分野でも子どもと接点を持つような取り組みは多数行われている。ただ、点での動きであり線でつながっていない印象は受ける。
- 子どもたちや市民が国際感覚などを身に付ける環境として、川崎市は多くの資源を持っている。特にかわさきコンパクトに参加している団体や企業の力は大きいのでその資源を生かしたい。
- 単年度ごとの計画ではなく、5年後を見据え5年間で何ができるか、5年続けてやるという発想で取り組み始めれば、積み重ねることで大きなことができる。
- テーマを定め、プロジェクト的な動きを作り、そこに企業と団体が参画するのはどうか。
- (事務局) 今年度は課題を持って企業と団体が向き合い課題解決に向けて話し合うような座談会を用意している。そこで今年できること、3年かけてやることなど具体的な行動が生まれることを期待している。
- こどもたちに何を残すのかなど、子どもたちというキーワードは受容され易いし、目標にし易い。川崎市の子どもたちが何も知らずに大きくなって世界に散らばっていくのは大変残念である。
- ここで話し合ったことが企業や団体とどこまで共有できるかは課題である。原点に立ち戻って皆に考えてもらうことが大事である。

以上の意見交換の後、今後座談会のテーマなどについてはメーリングリストで深めていくことを確認した。

#### 6. かわさきコンパクトセミナーの開催について

事務局から資料に従って提案があった。時間不足のため、内容についての意見交換はメーリングリスト上で行うことを確認した。

#### 7. 事務連絡

次回10月の委員会日程に関しては、10月の第1週か2週を目途にメーリングリスト上で調整する。

#### 8. 閉会